

平成 9 年度の空知支庁管内市町村教育委員会 主催の「絵画関係講座」に関する調査

Survey on Public Seminars Focused on Paintings and Drawings Organized by
Municipalities in Sorachi Sub-prefecture in FY 1997

野 崎 嘉 男

Yoshio NOZAKI

I は じ め に

北海道は平成 8 年に「道民の生涯学習に関する意識調査報告書」を発表した。それによると「生涯学習という言葉聞いたことがある」が 83.3%、「今後生涯学習をしてみたい」が 77.1% であり、北海道民の生涯学習に対する認識や関心の高さがうかがわれる。

生涯学習の経験では「この 1 年間で経験した」が 51.3%で、内容は「趣味的なもの」と「健康スポーツ」とが 50.0%以上であった。また、今後学習してみたい生涯学習の内容は「健康スポーツ」が 64.5%、「趣味的なもの」が 60.8%とこの二つの領域が圧倒的に多い調査結果がでた。生涯学習の目的については「趣味を豊かにする」が 65.8%、「健康・体力づくり」が 52.4%、「老後の人生を有意義に」が 52.3%、「他の人との親睦を深める」が 52.0%の順になっている。これらの意識調査結果や生涯学習推進施策の現状をふまえ、北海道は平成 8 年に北海道生涯学習審議会を設け、北海道の生涯学習推進施策の方向性を次のように示した。

- (1) 道民の生涯学習の関心が着実に高まっていることから、人々の学習意欲を充足させることのできる、より幅広い学習の機会の提供が必要である。
- (2) 高等教育機関の社会人入学や公開講座の受講希望が多いことから、全道的な体制づくりが必要である。
- (3) 学習したくてもできない原因があることから、これらについての解決方策について検討する必要がある。
- (4) 生涯学習を通して身につけた知識や技能などを、社会的に活用する方策について検討する必要がある。

この中の、(1)についての部分『…人々の学習意欲を充実させることのできる、より幅広い学習の機会の提供が必要である』ところに焦点をあて、趣味を豊かにする領域の一つでもある文化活動としての「絵画関係講座」が、前述したような北海道の生涯学習の積極的な取り組みに呼応して、私が居住する岩見沢市を含む空知支庁管内 27 市町村が、心の豊かさを求める住民のニーズに対応して「絵画関係講座」がどのように連動しているか調査をしてみることにした。調査の目的は①空知支庁管内市町村主催の「絵画関係講座」の開設状況を把握すること②住民

のニーズに応えた受講者状況を把握すること③担当指導者の状況を把握すること④教育委員会の多面的な対応状況を把握すること⑤私の今後の学生への絵画指導上の基礎的資料を得ることにある。とりあえず、今回は私が居住する空知支庁管内の調査に限ったが、早い時期に残り北海道13支庁管内全市町村を対象とした調査を行い、北海道全体の状況を検分することを念頭に置いている。

II 調査方法

調査対象は自治体の生涯学習の直接窓口である空知支庁管内27市町村（10市16町1村）教育委員会にした。窓口の呼称も社会教育課が14、社会教育係が7、生涯学習文化振興室が1、生涯学習課が5という状況であった。6月20日付けの文書で調査の依頼をしたが、8月31日までに27市町村教育委員会全てからの回答を得ることができた。調査はアンケート式とした。27市町村名は次のとおりである。

市部…赤平市，芦別市，岩見沢市，歌志内市，砂川市，滝川市，美唄市，深川市，三笠市，夕張市（以上10市）

町部…浦臼町，雨竜町，上砂川町，栗沢町，栗山町，新十津川町，秩父別町，月形町，奈井江町，長沼町，南幌町，沼田町，北竜町，幌加内町，妹背牛町，由仁町（以上16町）

村部…北村（1村）

※市町村名は50音順

III 結果および考察

1. 平成9年度の空知管内市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」開設の有無

平成9年度の空知支庁管内27市町村での「絵画関係講座」開設の有無は表1のように開設した市町村が12、開設しなかった市町が15であり、開設した市町村は全体の44.4%であった。市町村別にみると市が10市のうち7(70%)、町が16町のうち4(25%)、村が1村で1(100%)の状況であった。

表1 空知支庁管内27市町村の「絵画関係講座」開設の有無

市町村数	開設した		開設しなかった	
	数	割合	数	割合
10市	7	70%	3	30%
16町	4	25%	12	75%
1村	1	100%	0	0%
合計 27	12		15	

開設しなかった市町が15であったが、回答してくれた8市町からの理由として『昭和38年から平成8年まで「油絵講座」を開設していたが、講座から発展して現在3グループがサークルとして自主運営をしているので、少し様子を見ることにした』（砂川市）、『町文化協会所属の絵画部が2週に1回のペースで活動しており、文協の「郷土の美術祭」において発表している』（上砂川町）、『自主的にサークル活動を行なっているため』（奈井江町）、『高齢者大学のクラブ活動として、月2回4人から5人で行なっている』（浦臼町）、『過去に開設した経緯があり、その時の受講者がサークルを作り現在も活動していることから、教育委員会としての講座の開設は現在必要ないと判断している』（雨竜町）、『9年度、町民の中に絵画に対する関心が高まってきたが、公民館講座としてすぐに取り組むことは予算面で難しいことから、同好会を作ってはどうかと指導したところ、有志が12月町民に募集を行い、16名で「絵画同好会」を発足させた。指導は町在住の道展会員が当たり、毎週土曜日に公民館で活動している』（南幌町)というように、住民が何らかの形で自主的にサークル活動やクラブ活動を行なっていることを挙げている市町が多く見られた。その他の理由として『平成8年度以前には開設していた〈親子絵画教室〉：平成6、7年度〈美術講座「楽しい絵の描き方」〉：平成7年度)。しかし、参加人数が少なかったため平成9年度は開設を見合わせた』（岩見沢市）、『町全体的に見たときに「絵画教室」を開設しても人数が集まらず講座として実施が難しく、サークル活動として住民が自主的に行なっているので主催事業としては実施しない』（沼田町)というように住民の参加者不足が講座開設に結びつかないことを挙げている市町が少数見られた。

前者の理由は住民が自主的に学習する意欲の表れとも見られ、好ましい傾向といえるが、すでに学習して基礎的な技術を持っている者に対しては、さらにレベルの高い魅力ある講座の開設などの工夫をすると、自主的な活動を生かしながら講座の学習内容に一層深みが増すのではないかと考える。

後者の理由は住民側の学習取り組みの消極性が原因の一つになっているものと思われるが、教育委員会の住民へ対しての働き掛けや興味を持てる情報の提供、広報活動の創意工夫をすることによって講座への参加意欲を引き出すことが可能になるのではないかと考える。

2. 開設した講座の分野（領域）

講座を開設した市町村教育委員会の絵画関係分野（領域）は表2のように「水彩画」が5（赤平市、滝川市、深川市、月形町、北竜町）、「油絵」が4（美唄市、三笠市、夕張市、北竜町）、「版画」が3（歌志内市、三笠市、北村）、「ちぎり絵」が2（滝川市、由仁町）、「鉛筆画」が1（滝川市）、「植物画」が1（滝川市）、「色紙絵」が1（月形町）、「葉書絵」が1（月形町）、その他子供と親を対象とした「子供絵画教室」が1（新十津川町）、「親子ふれあい造形教室」が1（新十津川町）の合計12の領域の講座が開設されている。複数の講座を開設している市町が7（滝川市、三笠市、夕張市、新十津川町、月形町、北竜町、由仁町）で、開設している12市町村の58.3%であった。一番多く開設しているのは滝川市の5講座、月形町の3講座、三笠市、夕張市、新十津川町、北竜町、由仁町の2講座と続いている。

表2 開設した講座の分野（領域）

分野(領域)	開設市町村数	講座名(市町村名)
水彩画	5	水彩スケッチ講座(赤平市), 水彩画(滝川市), 水彩画入門講座(深川市), 成人講座: 絵画教室(月形町), ひまわり写生会(北竜町)
油 絵	4	絵画: 油絵(美唄市), 絵画講座: 油絵(夕張市), 油絵講座(三笠市), 初心者絵画教室(北竜町)
版 画	4	はんが教室(歌志内市), 版画講座(三笠市), 高齢者教養講座: 木版画(由仁町), 公民館講座: 版画教室(北村)
ちぎり絵	2	ちぎり絵(滝川), 高齢者教養講座: 和紙ちぎり絵(由仁町)
水墨画	1	水墨画(夕張市)
デッサン	1	デッサン: 人物(滝川市)
鉛筆画	1	鉛筆画(滝川市)
植物画	1	植物画(滝川市)
色紙絵	1	講座名記入なし(月形町)
葉書画	1	講座名記入なし(月形町)
子供絵画	1	子供絵画教室(新十津川町)
親子ふれあい造形	1	親子ふれあい造形教室(新十津川町)
計	23	

開設講座の分野（領域）を見るかぎり、絵画関係では本格的な「油絵」や「水彩画」から教養趣味的な要素の強い「ちぎり絵」「葉書絵」「植物画」まで、実に幅広い講座が展開されている。これらは余暇を活用して自己の生活にうるおいを求めている意識の表れと見ることができる。また、ユニークな講座としては「子供絵画教室」と「親子ふれあい造形教室」（新十津川町）を開設した意図と視点に注目したい。親子の絆の希薄さが指摘されている今の社会にあって、造形活動をとおして親子の小さな共同作業から温もりのある親子のふれあいが生まれたとしたら素晴らしいことである。

3. 開設した講座の月

講座を開設した月については表3のように4月が3講座、5月が10講座、6月が11講座、7月が13講座、8月が9講座、9月が11講座、10月が8講座、11月が8講座、12月が6講座、1月が6講座、2月が6講座、3月が4講座となっていて、7月が講座の最も多い月になっている。年間でみると5月から9月にかけての講座が多い傾向にある。ただし北竜町や北村などの農村地区は、受講希望者が参加しやすいように農繁期を除いた月に設定していて住民への配慮がうかがえた。月の設定としては通年型と数か月連続する型とに分かれている。

4. 開設した講座の期間（日数）

講座を開設した期間（日数）については表4のように1日間から18日間までと、講座の内容

表3 開設した講座の月(平成9年度)

講座名(市町村名)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水彩スケッチ講座(赤平市)		■	■	■								
はなが教室(歌志内市)								■	■			
鉛筆画(滝川市)		■	■	■								
ちぎり絵(滝川市)		■	■	■								
水彩画(滝川市)						■	■	■				
デッサン：人物(滝川市)										■	■	
植物画(滝川市)			■	■	■	■						
絵画：油絵(美唄市)						■	■	■				
水彩画入門講座(深川市)		■	■	■	■	■						
版画講座(三笠市)		■	■	■	■	■						
絵画講座(三笠市)							■	■	■	■	■	
絵画講座：油絵(夕張市)		■	■	■								
水墨画講座(夕張市)		■	■	■								
子供絵画教室(新十津川町)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
親子ふれあい造形教室(新十津川町)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
成人講座絵画講座(月形町)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
初心者絵画教室(北竜町)									■	■	■	■
ひまわり写生会(北竜町)					■	■						
高齢者教養講座：木版画(由仁町)				■	■	■	■					
高齢者教養講座：和紙ちぎり絵(由仁町)				■	■	■	■					
公民館講座版画教室(北村)								■				

表4 開設講座の設定期間

設定期間	講座名(市町村名)	設定期間	講座名(市町村名)
1日間	ひまわり写生会(北竜町)	10日間	水彩画(滝川市)
	高齢者教養講座：和紙ちぎり絵(由仁町)		水彩画入門講座(深川市)
2日間	植物画(滝川市)		絵画講座：油絵(夕張市)
	3日間		はなが教室(歌志内市)
デッサン：人物(滝川市)			成人講座絵画講座(月形町)
高齢者教養講座：木版画(由仁町)			12日間
公民館講座版画教室(北村)	親子ふれあい造形教室(新十津川)		
5日間	初心者絵画教室(北竜町)	14日間	絵画講座(三笠市)
	水彩スケッチ講座(赤平市)		版画講座(三笠市)
8日間	鉛筆画(滝川市)	18日間	子供絵画教室(新十津川町)
	絵画：油絵(美唄市)		

によって幅があった。「ひまわり写生会」(北竜町)が1日間で最も短く、「子供絵画教室」(新十津川町)が18日間で最も長かった。1日間から9日間で8講座、10日間から19日間で10講座であった。全体では10日間で5講座、3日間で4講座、8, 12, 14日間の2講座と続いている。「版画」の講座のように技術講習が主となり、すぐに作品に結びつくような内容の講座は比較的短期間の講座で終わっている。「油絵」「水彩画」などのように基礎的な技術学習から発展して作品制作に結びつくような内容の講座は長期間になる傾向にあるようだ。

5. 開設した講座の時間

開設した講座の一日の実時間については表5のように1時間30分から4時間30分であった。2時間というものが最も多く12講座、2時間30分と3時間が2講座、1時間30分と4時間30分が1講座となっている。写生会や制作に時間のかかる精密描写の植物画などを除けば、2時間程度の講座時間が適切といえる。

表5 開設講座の設定時間

設定期間	講座名 (市町村名)	設定期間	講座名 (市町村名)
1時間	なし	2時間	成人講座絵画講座(月形町)
1時間30分	親子ふれあい造形教室(新十津川町)		高齢者教養講座：木版画(由仁町)
2時間	水彩スケッチ講座(赤平市)		高齢者教養講座：和紙ちぎり絵(由仁町)
	はなが教室(歌志内市)		公民館講座版画教室(北村)
	鉛筆画(滝川市)	2時間30分	水彩画入門講座(深川市)
	ちぎり絵(滝川市)		絵画：油絵(美唄市)
	水彩画(滝川市)	3時間	ひまわり写生会(北竜町)
	デッサン：人物(滝川市)		子供絵画教室(新十津川町)
	版画講座(三笠市)	3時間30分	なし
	絵画講座(三笠市)	4時間	なし
	絵画講座：油絵(夕張市)	4時間30分	植物画(滝川市)
	水墨画講座(夕張市)	5時間	なし
	初心者絵画教室(北竜町)		

6. 開設した講座の時間帯

開設した講座の時間帯については表6のように正午から午後6時までが13講座、午後6時から午後9時までが8講座であった。確保しやすい時間帯は午後の時間帯が多くなっている。

7. 開設した講座の受講者数と男女の割合

開設した講座の受講者数と男女の割合は表7のように開設21講座の受講者数の総計は279人であった。内訳は男性が53人、女性が226人であり全体の19.0%が男性で、81.0%が女性で圧倒的に女性の受講者が多い状況にある。これは女性の方が、時間的にはゆとりがあり、余暇を活用できる立場にあることに起因していると思われる。

表 6 開設講座の時間帯

講 座 名 (市町村名)	時 間 帯		
	午前中	正午～午後 6 時	午後 6 時～午後 9 時
鉛筆画(滝川市)		○	
ちぎり絵(滝川市)		○	
水彩画(滝川市)		○	
デッサン：人物(滝川市)		○	
植物画(滝川市)		○	
水彩画入門講座(深川市)		○	
子供絵画教室(新十津川町)		○	
親子ふれあい造形教室(新十津川町)		○	
初心者絵画教室(北竜町)		○	
成人講座絵画講座(月形町)		○	
ひまわり写生会(北竜町)		○	
高齢者教養講座：木版画(由仁町)		○	
高齢者教養講座：和紙ちぎり絵(由仁町)		○	
水彩スケッチ講座(赤平市)			○
はなが教室(歌志内市)			○
絵画：油絵(美唄市)			○
版画講座(三笠市)			○
絵画講座(三笠市)			○
絵画講座：油絵(夕張市)			○
水墨画講座(夕張市)			○
公民館講座版画教室(北村)			○

8. 受講者の年代

受講者の年代については男女別には区分しなかったが、表7のように10歳以下(4歳から9歳)が29人、10代が11人、20代が4人、30代が13人、40代が63人、50代が52人、60代が77人、70代が2人、80代が1人となっている。年代については50代から60代が全体の半数以上を占めている(鉛筆画など3講座の年代の記入がなかったが、50代、60代も同様の傾向にあると推測して)。女性の場合は、子育てにも一区切りがつき、時間的にも経済的にも余裕のある熟年層の40歳代から60歳代が多いのは当然のことかもしれない。また人生の一区切りをつけた60歳代は30.5%を占めており、高齢化社会を迎えて好ましい余暇の過ごし方が地域にも徐々に定着してきている感じを強くもつ。一方、新十津川町の子供を対象にした講座で10歳以下(4歳から9歳)が29人受講していたことは、生涯学習の観点から考えると好ましい企画であり、講座の受講を契機に絵画などに関する興味や関心の「芽」が大きく育っていくことを期待したい。

表7 受講者数と男女の割合・年代

※－ 回答なし

講座名(市町村名)	男	女	計	4歳	10	20	30	40	50	60	70	80
				9歳	代	代	代	代	代	代	代	
水彩スケッチ講座(赤平市)	0	38	38	0	0	0	0	20	10	8	0	0
はなが教室(歌志内市)	4	7	11	0	0	2	0	6	2	1	0	0
鉛筆画(滝川市)	2	10	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ちぎり絵(滝川市)	0	8	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－
水彩画(滝川市)	1	6	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－
デッサン：人物(滝川市)	2	9	11	0	0	0	1	2	4	4	0	0
植物画(滝川市)	2	13	15	0	0	0	2	2	6	5	0	0
絵画：油絵(美咲市)	1	10	11	0	3	0	1	2	1	3	1	0
水彩画入門講座(深川市)	1	17	18	0	0	0	1	9	6	2	0	0
版画講座(三笠市)	2	3	5	0	0	0	0	3	0	1	0	1
絵画講座(三笠市)	2	4	6	0	0	1	0	2	2	0	1	0
絵画講座：油絵(夕張市)	5	10	15	0	0	0	3	4	3	5	0	0
水墨画講座(夕張市)	3	4	7	0	0	0	0	2	0	5	0	0
子供絵画教室(新十津川町)	3	18	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0
親子ふれあい造形教室(新十津川町)	4	4	8	8	－	－	－	－	－	－	－	－
成人講座絵画講座(月形町)	0	10	10	0	0	0	0	3	5	2	0	0
初心者絵画教室(北竜町)	0	9	9	0	0	0	1	3	4	1	0	0
ひまわり写生会(北竜町)	1	11	12	0	8	0	0	2	2	0	0	0
高齢者教養講座：木版画(由仁町)	8	12	20	0	0	0	0	0	0	20	0	0
高齢者教養講座：和紙ちぎり絵	8	12	20	0	0	0	0	0	0	20	0	0
公民館講座版画教室(北村)	4	11	15	0	0	1	4	3	7	0	0	0
計	53	226	279	29	11	4	13	63	52	77	2	1

※親子ふれあい造形教室(新十津川町)は未就学児童が対象。親の参加者数の回答は未記入であったが、子供と同数の同伴があった者と推測。

9. 講座の担当指導者

開設した講座の担当者については表8のように21講座のうち12講座(57.1%)が「地元専門家」、5講座(23.8%)が「他市町村専門家」、3講座(14.3%)が「主催教育委員会職員」、1講座(4.8%)が「地元愛好家」がそれぞれ担当していた。地元で専門家が在住していることが講座開設を活性化する要因となろう。注目されたのは3講座ではあったが主催者の教育委員会の職員が担当していたことである。将来、生涯学習社会を展望する時、自治体の職員が企画も含めて主体的に住民のニーズに対応できるような体制づくりが必要だと考える。すでに機能している自治体もあると思われるが、幅広い分野(領域)に精通した専門職員の配置が早急に望まれる。地元在住の愛好者も含め自治体と民間専門家との連携と協力体制づくりが急務と考える。

表 8 講座の担当指導者

市町村名	講座名	主催教育委員会職員	地元専門家	他市町村専門家	その他
滝川市	鉛筆画		○		
	ちぎり絵		○		
	水彩画		○		
	デッサン：人物		○		
三笠市	版画講座		○		
	絵画講座		○		
夕張市	絵画講座：油絵		○		
新十津川町	子供絵画教室		○		
	親子ふれあい造形教室		○		
由仁町	高齢者教養講座：木版画		○		
	高齢者教養講座：和紙ちぎり絵		○		
北村	公民館講座版画教室		○		
歌志内市	はなが教室			○	
美唄市	絵画：油絵			○	
深川市	水彩画入門講座			○	
夕張市	水墨画講座			○	
北竜町	ひまわり写生会			○	
赤平市	水彩スケッチ講座	○			
滝川市	植物画	○			
月形町	成人講座絵画講座	○			
北竜町	初心者絵画教室				○地元愛好者

10. 講座終了後の発表会の有無

開設した講座の終了後、受講者の作品発表会を開催した市町村は表9のように12市町村のうち8市町であった。講座の作品成果を住民に見てもらうことは、芸術作品の観賞の機会を提供する観点からも受講者の学習意欲の向上や励みの観点からも望ましいことであり、好ましい。また講座を継続的に開設していくとしたらこれらの発表会は格好の広報活動の場となりうる。可能な限り、発表の機会をつくることは必要なことだと考える。

発表会の会場は住民の学習の場である「公民館」が5会場と最も多く「図書館ギャラリー」、
「町農村環境改善センター」、
「町体育館」がそれぞれ1会場となっている。

11. 受講者の負担金額と教育委員会の負担金額

開設講座の受講者の負担金と主催教育委員会の支出経費については表10のように講座を開設している12市町村延べ21講座で、受講者負担の最高額は「絵画：油絵」（美唄市）と「絵画講座：油絵」（三笠市）の8,000円であった。最低額は「はなが教室」（歌志内市）、「デッサン：人物」（滝川市）、「成人講座絵画講座」（月形町）、「ひまわり写生会」（北竜町）、「初心者絵画講座」（北竜町）、「高齢者教養講座：木版画」（由仁町）、「高齢者教養講座：和紙ちぎり絵」（由仁

表9 講座終了後の作品発表会の有無と会場

市町村名	講座名	発表会有無	会場
歌志内市	はなが教室	○	市公民館
深川市	水彩画入門講座	○	市中央公民館
三笠市	版画講座	○	市公民館
	絵画講座	○	〃
夕張市	絵画講座：油絵	○	市公民館
	水墨画講座	○	〃
新十津川町	子供絵画教室	○	町農村環境改善センター
	親子ふれあい造形教室	○	〃
月形町	成人講座絵画講座	○	図書館ギャラリー
北竜町	ひまわり写生会	○	町公民館・温泉ロビー
	初心者絵画教室	○	〃
由仁町	高齢者教養講座：木版画	○	町体育館
	高齢者教養講座：和紙ちぎり絵	○	〃
赤平市	水彩スケッチ講座	×	
滝川市	鉛筆画	×	
	ちぎり絵	×	
	水彩画	×	
	デッサン：人物	×	
	植物画	×	
美唄市	絵画：油絵	×	
北村	公民館講座版画教室	×	

表10 開設講座受講者の負担金額と教育委員会の支出経費

単位：円

市町村名	講座名	自己負担金額	教育委員会支出経費
赤平市	水彩スケッチ講座	1,000	0
歌志内市	はなが教室	0	24,680
滝川市	鉛筆画	2,000	32,000
	ちぎり絵	2,000	40,000
	水彩画	2,500	40,000
	デッサン：人物	0	10,680
	植物画	2,600	44,792
美唄市	絵画：油絵	8,000	56,000
深川市	水彩画入門講座	2,000	100,000
三笠市	版画講座	5,000	56,000
	絵画講座	8,000	56,000
夕張市	絵画講座：油絵	1,000	100,000
	水墨画講座	1,000	100,000
新十津川町	子供絵画教室	1,000	162,000
	親子ふれあい造形教室	850	54,000
月形町	成人講座絵画講座	0	10,000
北竜町	ひまわり写生会	0	20,000
	初心者絵画教室	0	35,000
由仁町	高齢者教養講座：木版画	0	0
	高齢者教養講座：和紙ちぎり絵	0	0
北村	公民館講座版画教室	1,000	30,000

町)が無料であった。講座の内容を見る限り油絵関係の2講座が最高金額となっている。全体の負担平均額は1,807円である。平成10年の「道新文化センター」(10月期)での絵画関係16講座の受講料は表11のとおりで、全体の平均額は13,575円である。期間や講師、内容が異なるので単純には比較できないが、民間のカルチャー講座に比べると自治体主催の講座受講料はかなり安い設定といえる。

主催している教育委員会の各講座の支出経費について見ると「子供絵画教室」(新十津川町)の162,000円が最高額で、「水彩画入門講座」(深川市)、「絵画講座：油絵」(夕張市)、「水墨画講座」(夕張市)が100,000円となっており、21講座のうち4講座が100,000円以上の経費を支出している。全体の支出平均額は46,245円になっている。住民側からすると教育委員会からの支出が多いほど受講者の負担金が軽減されることになるので、講座内容の企画と予算づけは講座に取り組む教育委員会の姿勢を判断する材料になるのではないかと。

12. 教育委員会が講座を企画する時の課題

「絵画関係」の講座を企画・開設する時に一番苦慮することはとの質問に対して9市町村から次のような意見が寄せられた。『農家の主婦の方が多いため、日程調整に苦慮する』(月形町)、『大人の講座は農家が多いので、農作業期を外して設定している』(北竜町)、『時期・時間』(北村)というように一つは開設時期に関するものが挙げられた。特に農村地区にとっては深刻な悩みのようなのである。やはり農閑期に設定することにならざるをえない。『公民館サークルとして「日本画サークル」2、「油絵(水彩も含む)」5の計7つあり、文化講座として絵画講座を開設する場合に、現存する「絵画関係」のサークルとの関連に考慮していかなければならない』(美唄市)というように二つめは現存自主サークルとの関連に関するものが挙げられた。サークル活動をさらに発展させるような内容の企画の工夫で解決できないものかと考える。『指導者がいない。レベルの設定が難しい』(三笠市)というように三つめは指導者確保の悩みが挙げられた。地元には指導者がいない場合には近隣市町村在住の専門家講師との相互提携などができればと考える。『対象者をどうするかについて』(岩見沢市)、『受講生の募集について』(滝川市)、『総体的な絵画人口がどの位いるか。その中で講座に参加してくれる人が何人いて、講座として成立するか』(浦臼町)というように四つめは参加者、受講希望者確保をどうしたらよいかの問題が挙げられた。これは主催者側で

表11 道新文化センター10月期(平成10年)
絵画関係講座受講料 単位：円

講座名	受講料(3か月)
水墨画	13,500
アトリエF	15,000
木曜油絵教室	15,000
金曜油絵教室	15,000
土曜油絵	15,000
水彩画	15,000
水彩とパステル	15,000
右脳で描く水彩画	12,000
デッサン・クロッキー(T氏)	12,900
デッサン・クロッキー(W氏)	12,900
木版画	13,500
火曜デッサン	12,900
デッサン油絵	15,000
裸婦デッサン	13,500
植物画	10,500
季節のはがき絵	10,500

の絵画人口の把握や魅力ある講師の活用、広報活動の工夫などである程度は解決される課題と考える。『経験がないのでわからない』（幌加内町）というように五つめは未経験の理由が挙げられた。これは他市町村などの状況や情報を積極的に収集したり見聞するなりして様々な事例を研究し、地域住民からのニーズがあれば試行的にでも開設してみることが良いと考える。

13. 平成10年度に開設または予定の「絵画関係講座」

平成10年度に開設または予定している「絵画関係講座」については表12のように12市町村、延べ21講座であった。市が10市のうち6（60％）の11講座、町が16町のうち5（31.3％）の9講座、村が1村で1（100％）の1講座の状況である。平成9年度は12市町村、延べ23講座であったので2講座減少しているが全体的にはほぼ前年度と同様な状態といえる。平成9年度に開設していた美唄市が開設をしなかったので1市が減少し、平成9年度に未開設の栗山町が「デッサン教室」と「水墨画教室」の2講座を新規開設して1町が増えた。また、平成10年度開設講座の差し替えが「水墨画講座」（赤平市）、「絵手紙」（滝川市）、「デッサンの入門」（深川市）、「絵画教室」（新十津川町）、「押し花」（北村）となっており5講座が新設定されている。新講座の設定は受講者の増加と講座の活性化にもつながる。また、マンネリ化を防止する意味からも好ましい。

表12 平成10年度開設または予定「絵画関係講座」

市町村名	講座名	※平成9年度未開設で10年度新时期開設 ※新規講座名	
		市町村名	講座名
赤平市	*水墨画講座	※栗山町	*デッサン教室
歌志内市	はなが教室		*水墨画教室
滝川市	*絵手紙	新十津川町	子供絵画教室
	ちぎり絵		親子ふれあい造形教室
	デッサン：人物		*絵画教室
	植物画	月形町	成人講座絵画講座
深川市	*デッサンの入門講座	北竜町	初心者絵画教室
三笠市	版画講座		ひまわり写生会
	油絵講座	由仁町	高齢者教養講座：木版画
夕張市	絵画講座：油絵	北村	*押し花
	水墨画講座		

IV ま と め

以上、平成9年度の空知支庁管内27市町村教育委員会主催の「絵画関係講座」実施についての調査結果を報告し、若干の考察を試みた。今回の調査から次のことがいえそうだ。

- ① 「絵画関係講座」を開設していた市町村は、27市町村中44.4%にあたる12市町村で半数

以下であった。冒頭で述べたように道民の意識調査（平成8年度）では「趣味的なもの」の学習を希望する人が60.8%という実態にあることを考えると、半数以上の市町村で「趣味的なもの」の代表的な絵画関係講座の開設があってもよいのではないかと感じた。ただ、住民がサークルなどで自主的に学習活動を行なっている実態も見受けられたので、単純に講座の開設有無の状況だけで市町村教育委員会の取り組みの姿勢が弱いとか住民の学習意識が低いとかは言い切れない要素があることもわかった。

しかし、参加者不足が講座開設に結びつかない市町村が少数あり、今後の課題としては住民への幅広い生涯学習の啓発運動の検討、住民のニーズに応えられる「趣味的なもの」の講座の質や内容の検討、開設講座情報の宣伝方法の検討などが挙げられる。

② 講座の受講者を見ると、予想されたことではあったが圧倒的に女性が多いことがわかった。しかも、高齢化の傾向が強くなっている。生涯学習は人々が一生にわたって行なう学習活動であるので自ら楽しく豊かにいつまでも学習することは好ましいことである。これには男女の区別はない。今後は就業者の男性は別にしても高齢者の男性の参加者をいかにして増やすかが大きな課題といえそうだ。夜間時間帯の設定や企画の内容、例えば男性だけの講座の開設などで工夫ができそうな気がする。

③ 講座の担当指導者については開設した21講座の57.1%にあたる12講座が地元の専門家で対応していることがわかった。他支庁管内の資料がないので単純に比較はできないがこの数字は恵まれている状況にあるとあってよいであろう。今後、講座を継続的に発展させていくためには地元での幅広い分野（領域）の担当指導者の確保と次代を担う後継指導者の育成が課題といえる。ただし、分野（領域）によっては地元外の担当指導者との協力連携体制をつくることも視野に入れる必要がある。このことは講座の活性化やマンネリ化を防止することにもつながるからである。

また、特筆できることは講座主催の教育委員会職員が14.3%にあたる3講座を担当していたことである。近い将来の生涯学習社会を展望する時、生涯学習の窓口である教育委員会職員が住民のニーズに適った幅広い講座の企画・立案、組織・運営、管理・評価の業務を担当することが望まれるはずだ。3講座ではあったが大きな意味があると感じた。今後の課題としては、教育委員会では生涯学習の幅広い対応能力を持った専門職員の配置が急務となっていくであろう。

④ 受講者の負担金額は講座の内容、材料、道具などで当然異なってくるが、全体での平均額は1,807円と札幌市内の民間の同種の講座の受講料の平均額13,575円と比較すると相当安いことがわかった。また、講座を開設している市町村教育委員会での支出経費の平均額が46,245円であった。この数字は決して多い金額とはいえないができるだけ住民の負担を軽減する方向で対応をしていることがうかがわれた。行政の予算の裏付けの比重は、講座開設の取り組み姿勢を判断する材料の一つになると思われる。

⑤ 平成9年度に絵画関係講座を実施した市町村は大方、平成10年度も継続して講座を開設

していることがわかった。これには敬意を表したい。いろいろと苦勞しながらでも住民への生涯学習の啓蒙を含め住民のニーズに応じて関係講座を開設して努力している市町村があることはすばらしいことといえる。このような動きが関係講座を開設していない近隣市町村にも広がることを切に期待したい。

⑥ 限られた項目ではあったが、空知支庁管内の市町村教育委員会主催の絵画関係講座開設の状況を調査することができた。講座の開設状況や指導者の対応、受講者の男女別傾向や年齢層、受講者の負担金額や教育委員会の支出経費など、興味深い結果を得ることができた。

冒頭で述べた北海道が生涯学習推進施策として方向性を示した「道民の学習意欲を充実させることのできる、より幅広い学習の機会の提供」に関係講座が、今後道民に対しどのような役割を果たし、機能していくのか、また自治体の適切な対応の在り方などの分析検討の基礎資料とさせていただきたい。

本務多忙な中、快くアンケート調査にご協力いただいた空知支庁管内27市町村教育委員会生涯学習担当窓口の方々に心から感謝とお礼を申し上げる次第である。

文 献

- 1) 野崎嘉男・藤原 等：北海道における生涯学習の取り組み(1)，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第34号，137～138，1998.
- 2) 藤原 等・野崎嘉男：北海道における生涯学習の取り組み(2)，北海道女子大学短期大学部研究紀要，第34号，149～162，1998.
- 3) 北海道教育委員会：21世紀の北海道教育長期プラン(第3次北海道教育総合計画案)，1998. 1.
- 4) 北海道生涯学習審議会：生涯学習意識調査結果(抜粋)，1996.